

【学修などでの生成 AI 利活用ガイドライン】

1. 大学における生成 AI の利活用について

大学での学修は、単に知識を記憶することだけではありません。自ら問題を発見し、深く思考し、判断し、多様な方法で表現するといった、主体的な活動が重要です。これらの能力は、今後の社会で活躍するために不可欠な力と言えます。

生成 AI は、情報収集や文章作成の「補助」をしてくれる便利なツールですが、これに依存しすぎることによって、思考力や創造力を養う貴重な機会を失わせてしまう可能性があります。学びの過程で生じる「分からないこと」に自ら向き合い、解決策を探求することこそが、成長につながります。生成 AI は、この主体的な学びのプロセスをサポートするためにこそ使用すべきです。

2. 生成 AI を使用するメリットとデメリット

【メリット】

- ・学習効率の向上……情報収集や文章作成のサポート等により、学習が効率的になります。
- ・創造の広がり……自分では思いつかなかった、様々な視点やアイデアを生成 AI から得ることによって、自身の思考を深めたり広げたりできる可能性があります。

【デメリット】

- ・誤情報・偏見のリスク……生成 AI は常に正確な情報を返すとは限らず、誤った情報や特定の意見に偏った情報を生成する可能性があります。
- ・思考力・意欲の低下……生成 AI に頼りすぎると、自ら考えるプロセスが失われます。また、学ぼうとする意欲も失われる可能性があります。
- ・情報漏洩のリスク……個人情報や機密情報（研究データなど）を入力すると、意図せず情報が外部に流出する可能性があります。
- ・著作権侵害のリスク……生成されたコンテンツが既存の著作物に類似している場合、著作権侵害となる可能性があります。

○これらのメリットとデメリットを理解した上で、生成 AI を使用することが重要です。

3. 生成 AI 利活用における留意点

生成 AI を安全かつ適切に利活用するために、以下の点に留意してください。

- ・学修・研究に取り組み、研鑽に励むことが大学生活の基本です。生成 AI を利用することによって、より理解を深める、新たな考え方を身につける意識を持つことが重要です。
- ・生成 AI が生成したものが既存の著作物と類似している可能性を検討し、他者の著作権を侵害しないよう十分注意してください。
- ・情報漏洩のリスクが高いため、生成 AI サービスへの個人情報や大学の機密情報（研究データなど）の入力は、絶対に避けてください。
- ・生成 AI の出力は不正確な場合があるため、得られた情報が正しいかどうかを必ず複数の信頼できる情報源で確認（ファクトチェック）してください。
- ・生成 AI を利用した結果生じた問題や損害については、原則として利用した皆さん自身が責任を負うことになります。

レポートや論文での利用

課題の作成に生成 AI を利用した場合は、どの部分でどのように利用したか、どのように質問したのかを「明記」することが求められます。具体的な記載の内容や方法は、担当教員の指示に従ってください。

授業での利用

科目によっては、生成 AI の利用について個別のルール（利用の可否、利用範囲など）が指示される場合があります。その場合、授業中の説明等をよく確認し、担当教員の指示に必ず従ってください。場合によっては不正行為となり、単位認定できなくなる可能性もあります。

4. 生成 AI 利活用の適切な例

- テーマ設定のアイデアを得る
 - レポートや論文のテーマ探し、構成検討、議論の視点整理など、行き詰まったときにアイデアを広げることができます。
- 文献調査・資料収集する
 - 複数の資料や Web サイトの情報を効率的に収集し、要約する手助けになります。
- 文章作成・推敲をする
 - 表現の言い換え、誤字脱字のチェックなど、文章を作成する際に効率化が図れます。
- 理解を深める・考え方を広げる
 - 授業で分からなかったことを質問したり、教科書の内容について詳しい説明を求めたりすることができます。

【Point】

生成 AI を使用する際は、**ファクトチェック**が必要です。ファクトチェックとは、生成された内容をそのまま鵜呑みにせず、必ず自身の頭で考え、他の情報源と照らし合わせ、内容を検証することです。

5. 生成 AI 利活用の不適切な例

- レポートや論文、課題の回答として、生成 AI が出力した内容を**ほぼそのまま使用したり、自分の成果物として提出したり**する。
 - 何も思考しておらず、学修とは言えません。また、盗作や剽窃といった不正行為にもあたります。
- 生成 AI が生成した情報を**検証せずに正しいと判断**し、学修や研究にそのまま使用する。
 - **誤った知識を広げることや不正確な結論を導き出す**ことにつながります。また、生成 AI が既存の著作物に類似したコンテンツを生成した場合、その利用方法によっては**著作権侵害**となる可能性があります。
- 氏名、学籍番号、住所、成績情報、未公開の研究データなど、**個人が特定できる情報や機密性の高い情報**を生成 AI に入力する。
 - 情報漏洩のリスクを伴います。

【Point】

課題を解決するための思考や調査、実験といった**主体的なプロセスを生成 AI に代替させ、結果だけを得ようとする**ことは、**自身の成長の機会を放棄**することになります。

【教育・研究における留意点（教員向け）】

授 業

- ・担当科目でのレポート等課題作成時の利用の可否や活用範囲等については、必ず学生に説明してください。
- ・学生達が安易に生成 AI の不適切な利用をしないよう授業方法や課題、評価方法など、実のある学習となるための工夫をしてください。

研 究

- ・翻訳や校正等で利用する際は、情報の流出にご留意ください。
- ・利用する生成 AI の規約を理解し、機密情報が漏洩しないよう工夫してご利用ください。
- ・論文や学会発表等での利用については、学会等の方針に従ってください。

【業務における留意点（教職員）】

- ・利用する生成 AI の規約を理解したうえで、活用してください。
- ・不用意に、個人情報や未公開の情報を入力しないでください。特に、要約や翻訳、議事録作成時には、注意が必要です。
- ・生成物については、他者の著作権を侵害していないか、必ず確認してください。

【ガイドラインの見直し（学生・教職員）】

技術の発展や社会の対応状況に応じて、本ガイドラインの見直しを行い、必要に応じ改訂することとします。